

この2年間また読書を始めた。今さら役には立たずヤメときゃ良いのに、アマゾンで戦記物を購入してトイレに置いてある。兵士の生き様について「畜生、こんちくしょう！」と歯ざりして読んでいる自分がいる。その数、ざっくり20冊になる。なるべく自分の趣味である飛行機物は購入しないで、整備兵や兵站（輸送）を扱う物を選んでいたが、やはり知らずに飛行機物に食指が動いていた。なぜ読んでいて「畜生、こんちくしょう！」なのか。敵に勝てない状態を自分の感情で表したようになるからだ。アメリカは大好きで尊敬できる国だが、当時の4年間は敵だった。敵に容赦はいらない、せん滅あるのみだ。

あるラバウル航空隊の整備兵は「大和魂で鉄は切れない」という表現は、当時の日本の本当の国力を物語っている。敵150機に対して、こちらは陸軍一式戦や海軍零式艦上戦闘機が50機で迎え撃った。戦いの結果、敵は1/3の50機を失うが、こちらも同じ1/3の15機を失った。敵が凄いのは、翌日にはまた150機で来るが、こちらは失われた補充が十分ではないので、また1/3になることだ。

今の日本はクラスター爆弾禁止条約に加盟しているようだが、日本海

軍が開発した3号爆弾（クラスター爆弾）は零戦に取り付けられ、B29の上空でドバー！と炸裂して敵をやっつけてくれた。ターボチャージャーがあればもっとパワーがあり、より上空に行けて燃費向上にも役立ったが、大戦中は実用化できる大量生産はできなかった。最後はあのラバウル小唄にあるように、さらばラバウルよ！また来るまでは！少しばし別れの涙がにじむ！になる。

ある本には、陸戦で死ぬのは1/3で、残りは病気が餓死になると記載されていた。特に昭和19年（1944年）以降の被害が多いようだ。食べ物と奪い合う姿、驚いたのは塩の存在だ。この塩が内陸に行く調達が難しく、それなりの物と交換しなければならぬ。ヤシの実も勝手に取ると現地の人たちと揉めるが、敵の爆撃がある時はヤシの実が落ちるので調達しやすかった。

敵の強さよりも、指揮する上官が弱音を吐くことが一番恐ろしい。しかし、部下をイジメすぎると、日本

## Vol.158 兵士の命は1銭5厘



宮井 能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作物にする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子ども時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョシディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。

Illustration by Kazushige Akita

へ帰る輸送船で何名か消えてしまう（デッキから突き落とされる）こともあったようだ。情けないことに、あれほど「バンザイ・バンザイ」と兵士を送った国民のなかには、兵士の帰国に「お帰りなさい、ご苦労様」も言えない者がいた。兵士が戦った相手がアメリカか、イギリスかオランダか中国かではなく、日本に対する「敵」はすぐ

# オレにも 言わせる!

## 北海道長沼発 ヒール・ミヤイの憎まれ口通信

そこにいたのである。

日本兵士（敵兵士）の多くは外国人を見たことも話したこともない、まして金髪ブルーアイの習慣など知るはずもなく、土日は休みパーティーに興じる怠け者だ！と朝日新聞や毎日新聞に洗脳されてしまった。だから、それらの新聞は戦後反日になったという理論だ。考えて見ればたくわん、味噌汁、だけがおいしいと思っていた日本人が牛肉をたらふく食べられるようになったのはいつなのか、一度牛肉とマツクを覚えた人間は麦飯だけに戻れない。

戦いは南だけではない。カムチャッカ半島のすぐ数キロの占守島では8月15日ポツダム宣言後の18日に、ソ連から攻撃を受けた。その時の指揮官が兵士に言う言葉は胸に響いた。

「諸子は赤穂浪士のように恥を忍び後世に仇を報ずるか、白虎隊となつて民族の防波堤となるか」。1銭5厘は召集令状の切手代金だ。死んだときの通知も1銭5厘。その魂が眠る靖国がダメなら、今の国民はなぜ無名戦士が眠る千鳥ヶ淵に向かわないのか――。

## 日本人の本質は変わらない

今回は勇ましく戦争の話を書きた

かったわけではない。今も当時と何も変わっていないということを伝えたいのだ。現在においても、声高々に言うのは反戦、オーガニック、遺伝子組み換え反対、そして最小の共通項は反日である。日本の反戦主義者が反戦を貫けば日本は外からの攻撃に対応できるのか、できるわけがないだろバカ!

日本の湿潤気候で病気も発生しないでオーガニック作物が健全に育ち、アメリカのようにオーガニックの専門スーパーで、ノンオーガニックの1.5倍の値段で販売できるのか、できるわけないだろアホ!

アメリカ、カナダなどから遺伝子組み換えコーンを1500万トン輸入、その他の遺伝子組み換え作物を含めて2000万トンの輸入を反対しない。では、国内栽培を認めない遺伝子組み換え反対野郎は国内畜産業が成り立つと考えているのか、この能タリンどもがつつつ。

かといって今まで金髪・ブルーアイのアメリカ人に「お前たちの農業はおかしい、農産物は危ない！」とアメリカ領事館やアメリカ人に面と向かって叫んだ日本人は何人いるんだ。お前たちの正義を貫くんだつたら、遺伝子組み換え作物の輸入禁止してみろ！自分が生まれて育った土地を愛さないで、外国人に選挙権

を与えようとか、土地を自由に買わせる反日野郎の子供は、親の背中を見て育ち、間違いなく親を怨むことになる。わかつたか、大ボケ野郎!

彼ら彼女たちは自分たちは正しい行ないをして、子供たちのためにも良いことやっていると信じているし、一部は実行している。そして彼ら、彼女たちの主義・主張する敵には容赦ない行動を取る者もいる。あれつと？思いませんか。

そう、単語は変わるが、戦争中と何ら変わらないことをやっている。所詮、英語の成績は良いけど金髪・ブルーアイをイングリッシュでナンパしたことの無い5インチ野郎だもんな、相手にしてくれないわ、あゝ残念。戦後公職追放されて勝てない軍国主義がなくなったのだろうか。公職追放された部下がその日本人を幸せにしない努力を脈々と受け継いでいるのだ。

その辺りのことは、5月18日付けのニューズ・ウィーク誌36ページにシッカリと日本人の本質が書かれている。

なぜ農産物をたくさん作ることにエネルギーを注がないのだろう。国産大豆は50年間収量が変わらない。アメリカはその間に遺伝子組み換え技術を使い、ざっくり2倍の収量に

した。北海道小麦も評判が良いと言われているが、なぜパン用の小麦は3年前から売れ残り、北海道だけでその数量は数万tになったのか。十勝では貯蔵倉庫すらなくなったと聞く。実態は国産小麦の食品への品質がアメリカ産より落ちるから。マーケットは正しい判断をしたのか。

アメリカは賢いと思う。アメリカ国内産コーンの40%はエタノールに向けられる。この量はCO<sub>2</sub>削減になるという大ウソだ。実際アメリカのエタノール工場では、生成工程に使われるエネルギーは無視されるが、アメリカ国内で食料不足になった時はこの余剰の40%を振り分けてできる。また大和魂で日本のウンだろつか。私はごめんだ。お前らと心中などするつもりはない♡

ちなみに先ほどのクラスター爆弾禁止条約に日本は加盟しているが、アメリカは遺伝子組み換え作物を扱う条約や対人地雷の禁止条約、子供の権利条約、核兵器禁止条約気象変化：条約などには批准していない。批准しているのは、豊かさを100年以上経験していない国か嘘つきヨーロッパが多い。ダメされてはいけないな。

何に騙されている？ それはあなたが答えを出してください。